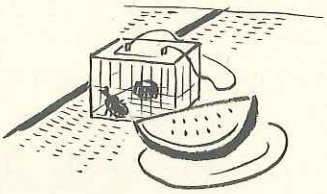
ついじまつ COMMUNICATION 12

ついじまつコミュニケーション：築地松情報誌2000. 8月　発行－築地松景観保全対策推進協議会

「そろそろお墓に行くよ」とお母さんの声。
川遊びで疲れた体を起こして家族一緒に墓参り、帰った後のスイカが楽しみだ。
「暑いなぁ」途中思わずつぶやく8月の空の下、近所の木陰でひと休み。
昨日もこの木陰で友達と話してた。
「クラゲが出たからもう海水浴はだめだって」、
「宿題済んだか」、
「いや……まだ」、
「もう8月にお祭りはないのかなぁ」、



夏休みも終わりが近づくと、いつもこの木陰で交わす会話だ。
そういえば、この木はずっと前からここにあるんだよね。
ついじまつって言うんだ。
おばあちゃんも話してたし、お父さんも言ってた。
学校の帰りにも会ってるし、セミとりや村まつりのときも。
いつもいっしょなんだ、ここのついじまつ。

新シリーズ

散居景観ネットワーク

「こんにちは 胆沢町（いさわちょう）です」

Vol.1

ここ出雲平野と同じように、日本全国には散居村※や屋敷森※など、美しい景観を大切に守っている地域があります。このコーナーではその代表的な地域を紹介していきます。第一回目は岩手県の胆沢町です。

胆沢町は、岩手県の南西部に位置し、胆沢扇状地の広大な水田地帯に屋敷林（エグネ）で囲まれた民家が点在する散居集落を形成しています。

江戸時代は伊達藩に属し、屋敷林木を保護する政策をとっていたことから、屋敷面積はこの屋敷林面積を課税外地（除地）とし、また勝手に伐採することを禁じていました。伐採願には必ず、現在の保安林と同様に植継ぎを条件としていたそうです。エグネの名前の由来は、伊達藩内の一般文書によると屋敷林を居久根と記されておりますが、残念ながら詳しく分かっておりません。屋敷（居）の地境（久根）に植えている林であることから、イグネが訛ってエグネと呼ばれたのでしょうか。

エグネは、冬の北西からの季節風から屋敷を守る防風林として大きな役割を果たしています。樹種として、杉を主に栗・桐などが植えられ、昔は家屋改築時の用材として活用されたり、枯れ葉などは燃料や肥料として使用しました。

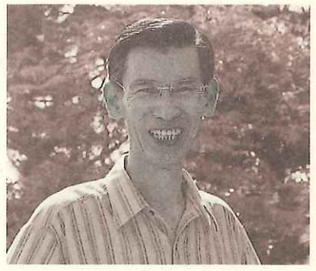
このエグネが創り出す独特の景観は「美しい日本のむら景観コンテスト農林水産大臣賞」を受賞するなど高い評価を得ており、町では平成8年度から「えぐね等植栽推進事業」として、エグネ等の苗木購入費の一部を助成し、緑あふれ、ゆとりとやすらぎある散居景観を未来の子どもたちへと保存・継承しています。

（岩手県胆沢町企画情報課　佐藤憲寿）

※散居村＝家々が敷地の距離をとり点在しながら地域を形成している場所のこと。
※屋敷森＝家の周囲を様々な樹木で囲み、独自の生活空間をつくり出している家の様をいう。

暮らしの中で

「築地松がもたらす縁（えにし）」　岡　正明さん（斐川町福富在住）



高さ約15m、樹齢330年を刻む岡さん宅の築地松。澄み渡った大空に向かってそびえ立つその勢いは他の追随を許さない。「確かに手入れは大変です。でも苦労はね、たくさんのプラス面で報われていますよ」と、岡さんは松を見上げて微笑む。

築地松を通して運ばれる夏の冷たく軟らかい風。冬の厳しい季節風さえも趣あるハーモニーに変え、過去どんな大きな台風からも家屋を守ってくれる絶大な信頼感。

そして何より、この築地松は岡さんに出会いの喜びをもたらしているのだ。これまで、数えきれないほどの人がこの築地松を尋ねてやってきた。そのたび岡さんは快く我が家の松を紹介している。「私にとっては当たり前の存在だったんですけどね。珍しいと言われると、こりゃ変なことはできないなと思うようになりましたね」

ゆくゆくは自作のホームページでも紹介したいと考えている。築地松のよさを自分に再認識させるきっかけとなった人たちを連れてきたのは、何よりこの築地松なのだから。

LOOK 築地松促成栽培

当協議会では平成9年度より築地松を保全するため松くい虫抵抗性品種の松（クローン松）を促成栽培の技術を利用して育成する事業に取り組んでいます。その促成栽培松を、出雲平野にお住まいの4軒のお宅に御協力いただいて、既に枯れた築地松の後に植樹しその成長について追跡調査を行いましたので、その調査内容と結果をご報告します。

1 植栽年月日　平成11年3月15日
2 調査期間　平成11年4月～平成12年5月
3 植栽方法及び注意事項
- 植栽地の底土を深く掘り起こした所に、きれいな真砂土と木炭（1～2cm角）を30～50球混ぜて、幅50cm四方、高さ10cm程度の盛土で円形の植床を作る。
- 苗木の根を曲げないように広げて植える。
- 台木から出た新芽（枝）は切り取る。
- 日照をさえぎる周囲の障害木等を除去し風通しも良くする。
- 灌水、除草は状況に応じて実施し、特に溜まり水にならないように注意する。
- 施肥（根元より10～15cm程度離れた所に円形に施し土中に埋め込む。）4月～7月1か月に1回1本当たり30～50g程度醗酵済み油粕を施す。（N4%.P6%.K2%）

4 成長記録

下の表のとおりです。ただし、各お宅とも数本植栽した中で一番成長の良いものを掲載しました。

植樹場所/氏名	住所	植栽直後の苗長(cm)（H11. 3. 15）	調査終了時の苗長(cm)（H12. 5. 26）	差(cm)
郷原博勝さん宅	出雲市	63	146	83
松原正雄さん宅	出雲市	45	113	68
石原勝之さん宅	平田市	53	107	54
樋野良吉さん宅	斐川町	42	114	72

5 まとめ

築地松は家屋の西側と北側に多くあり、被害箇所が歯抜け的に散在し、その周辺には築地松の健全木とその他の広葉樹の巨木、庭木、生垣、ブロック壁等があるため、植栽場所の環境が悪く植栽木の初期成長に差が見られ、平均的成長量は望めない。

しかし、松は特に日照、通風、水はけが必要であることから人的介護（支柱、施肥、周囲木の伐採又は移動、枝切り等）を施すことにより、旺盛な成長を望むことができる。また、南側の日当たりの良い畑等で被害地の空間の大きさまで育て移植する方法も考えるべきである。なお、移植については、苗木が大きいほど活着と、後の成長が劣ることから、5～7年、苗丈で3～5m前後を目安とする。

現在までの調査結果では病害虫の被害はなく、場所による成長差はあるものの比較的順調で、今後も適正な管理を行うことで年々成長量が増大するものと思われる。

■築地松景観保全対策推進協議会からのお知らせ■

平成12年5月29日（月）に平成12年度築地松景観保全対策推進協議会総会を開催しました。新しい役員と本年度の事業計画は次のとおりです。

■新役員
会　長　平田市助役　長岡秀人　　監　事　斐川町助役　新宮義忠
副会長　大社町助役　池田　均　　監　事　出雲市住民　山田榮一

今後2年間、この役員体制で築地松の保全対策を進めていきます。よろしくお願いします。

平成12年度事業計画
- 「ついじまつCOMMUNICATION」の年3回発行（各戸配布と県外へ向けた情報発信）
- インターネットによる情報発信
- 築地松景観保全住民協定の締結の促進
- 築地松保全に対する助成金の交付
- 陰手刈り職人座談会の開催
- 陰手刈りの技術を後世に伝える冊子の作成
- 築地松実態調査、住民意識調査の報告書及び普及用パンフレットの作成

築地松の維持管理費の助成制度

■助成対象となる維持管理内容
1.松枯れの防除
2.枯れ松の伐倒
3.築地松の剪定
4.築地松の新植・補植

■助成金の交付額
維持管理に要した経費の２分の１以下で上限が10万円までです。

■助成金を受けるのに必要なもの
1.維持管理に要した経費を証明する領収書
2.写真

㊟この助成金は、同一の築地松に対しては、４年間に1回です。助成金に関するお問い合わせは、築地松景観保全対策推進協議会（次ページ下欄参照）までお願いします。

築地松は"築地"の松

築地という言葉は、平安初期の『倭名抄』にはまだ見えないが、中期の『和泉式部日記』や『大鏡』などには見えるようになる。しかしそれらはみな御所や大寺、あるいは貴族の屋敷などにかかわるもので、一般庶民の家にまであるものではなかった。その造築の手順にしてもたいへんであって、泥を煮て乾かし、それにニガリを入れてつき固めるというものであったし、高さも御所のは一丈以上、貴族の屋敷のもそれに準ずるくらいであった。

一方、中世になると、これに類するものとして土居という言葉を見るようになる。これはもともと土塁のことであって、まず外周に堀をめぐらせ、その残土をもって内側に構築するものであった。高さは築地ほど高くはなかったが、それでも威容を示すには十分であったし、また実際に外敵防禦の役にも立った。だからこの地方でも中世に土着した武将の屋敷などにはみなこの構えがあった。たとえば小山（出雲市）の三木家などには今でも、かすかではあるがそのなごりがある。また寺院でも塩冶（出雲市）の神門寺や渡橋（出雲市）の観音寺などには、やはり堀・土塁の痕跡がある。

しかし近世に入ると、もう中世のような外敵防禦の必要は少なくなる。けれどもここ出雲平野の場合は、土地そのものが全国でも有数の湿地であったから、屋敷を設けるにはどうしても敷地を高くし、またその周りに樹木を植えるには、その部分だけさらに高くしなければ樹木が育たない。だから古い開拓地主の屋敷にはみな周りに土塁があり、またその外側には泥を掘った後の溝があった。そういう構造の家が先年の土地改良まで、現在の出雲市・斐川町の地内でも十軒くらいはあったはずである。

土塁跡（観音寺境内）

そういう植樹の必要から起こった土塁を、土居といわずに築地という言葉で呼んだのは、いつどういう事情からであったか、残念ながら書いたものは残らない。

（石塚尊俊）

筆者紹介
石塚尊俊（イシヅカ　タカトシ）
1918年出雲市生まれ。國學院大学卒業。文学博士。雲根神社（出雲市）名誉宮司。中学校・高等学校教師、島根県教育委員会文化財主査、島根大学教育学部非常勤講師、広島修道大学人文学部・大学院教授などを勤める。山陰民俗学会名誉会長。

築地松景観保全対策推進協議会

島根県環境生活部景観自然課　〒690-8501 松江市殿町1番地　電話0852-22-6143
島根県出雲総務事務所　〒693-8530 出雲市大津町1139　電話0853-23-1515
出雲市建設事業部建築課　〒693-8530 出雲市今市町109-1　電話0853-21-2211
平田市建設経済部農山村整備課　〒691-8601 平田市平田町951-1　電話0853-63-5546
斐川町ふるさとデザイン課　〒699-0592 斐川町大字荘原町2172　電話0853-73-9210
大社町観光商工課　〒699-0792 大社町大字杵築南1395　電話0853-53-3111
ついじまつホームページアドレス　http://www.pref.shimane.jp/section/keikan/

この情報誌は古紙配合率100%の再生紙と、環境保護のために大豆インク（SOY INK）を使用しています。

ついじまつ COMMUNICATION

13

ついじまつコミュニケーション：築地松情報誌2000.12月　発行－築地松景観保全対策推進協議会

「よその神さんが帰られましたから冬が来ましたで」
炬燵に入り、ガラス戸越しに築地松を見上げながら、おばあちゃんのひとり言。
雪を連れてくる北西の風と、色合いのうすれた景色の中で、ひときわ鮮やかな松の緑。

「おかげさんで、この築地松がだいぶ風よけや雪よけになってごしますけん」
外の道では、子どもたちが寒そうにフードを立てながら家路を急いでいる。もうすぐ白い冬、築地松が一番がんばる季節かもしれない。
そして、その鮮やかな緑は誇らしい築地松の勲章か。